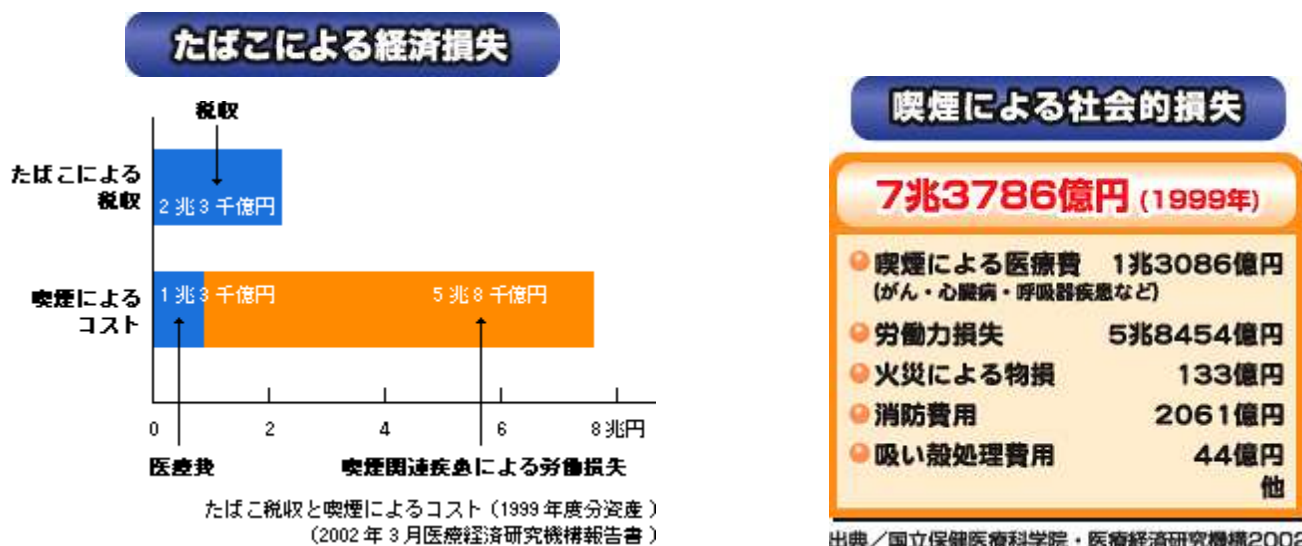


週刊 タバコの正体

「タバコは百害あって一利なし」と言われるとおり、損をすることはあっても得をすることは一つもありません。しかも、そのパッケージには「タバコは、肺がんや心筋梗塞の原因となります」というような警告文が掲載されているのですから、もし、タバコが存在しない世界から来た人がいたとしたら、「そんなもの、どうして作るの？ そして何で売ってんの？」と思うはずですよ。

しかし、現実には下のグラフにあるように、売上から入る税収が2兆円を超えるほどタバコは売られています。これは、タバコがやめられないニコチン依存症の人がタバコを必要としているからなのです。そして国や地方自治体は、この2兆円の税金をあてにして、毎年の予算を作っているのです。タバコの販売を続けているのです。



でも、上の図表をよく見てください。いまから10年以上前のデータですが、2兆3千億円の税収を得るためにタバコを売ると、そのタバコを吸った人達が病気になります。するとその医療費に1兆3千億円が必要となり、それによる労働力の損失が5兆8454億円にもものぼるのです。つまり、タバコを売ると国全体としては5兆円近い赤字になっているわけです。

さきほどの“タバコが存在しない世界から来た人”に、「何考えてんの？」って呆れられるだろう状況ですが、今も赤字を出し続けています。

ニコチン依存症の人を無くし、タバコの税収をあてにしない予算を組めば、すべて丸く収まるように思いませんか。実現するには、かなりの年月がかかるでしょうが、いま君たちがタバコを吸わなければ、それが“はじめの一步”となるはずですよ。

産業デザイン科 奥田 恭久